

第2学年 音楽科学習指導案

い組 男子20名 女子20名 計40名

指導者 濱田 宏明

1 題材 うたってあそんでⅡ

教材 「かくれんぼ」 林柳波 作詞 下総暎一 作曲
「口ぶえふいて」 ドイツ民謡（本時主教材）
◎「あんたがたどこさ」 わらべうた

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第1学年題材「うたってあそんでⅡ」において、歌に合わせて手拍子でリズム打ちをしたり、音楽に合わせてステップを踏んだりする活動を通して、歌詞や曲の気分にあった歌い方や体の動きを工夫することの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、歌詞や曲の気分に合わせて歌ったり、強弱を工夫して歌ったりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌ったり、曲の気分に合わせて体を動かしたりする活動を通して、友達と声を合わせて歌ったり、拍の流れにのって強弱を工夫して歌ったりする能力を育てるとともに、歌詞や曲の気分に合わせて歌うことに関心をもち、歌詞や曲の気分にあった歌い方や強弱を工夫する能力を高めることをねらいとして、本題材「うたってあそんでⅡ」を設定した。

ここでの学習は、旋律の感じを生かして強弱の変化を工夫しながら演奏をする能力を育てる第3学年題材「ふしのかんじを生かして」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

友達と声を合わせて歌ったり、拍の流れにのって強弱を工夫して歌ったりする能力を高めるためには、歌詞の表す情景や気持ちを具体的にイメージして、それに合った歌い方を工夫して表現できるようにすることが効果的である。特にこの期の子どもたちには、遊びの要素を取り入れたり、体を動かしたりすることで、曲の気分を感じ取って表現できるようにすることが大切である。

具体的には、まず「かくれんぼ」を取り上げる。この楽曲は、かくれんぼ遊びの一連の会話がそのまま歌詞となっており、かくれんぼ遊びの様子を容易に想像することができる。また、シンコペーションのリズムと落ち着いたリズムの前後半に分かれており、場面の様子にふさわしい歌い方を工夫するのに適している。そこで、交互唱を行ったり、場面設定に合った模擬体験をしたりする活動を通して、拍の流れにのりながら、曲の気分に合わせて友だちと歌ったり、体を動かしたりする楽しさを味わえるようにする。

次に、「口ぶえふいて」を取り上げる。この楽曲は、南ドイツのバーデン地方の民謡が基となっており、山で楽しく遊ぶ様子を歌ったものである。また、前半のはずむような感じと、後半ののびのびとした感じを生かして表現したり、平易な歌詞を基に様子を思い浮かべながら歌ったりするのに適している。そこで、「かくれんぼ」との共通点・差異点を基にして、歌詞の表す情景や気持ちごとに歌い方を工夫する楽しさを味わえるようにする。

さらに「あんたがたどこさ」を取り上げる。この楽曲は、手毬歌として日本では馴染み深く、かくれんぼと同様に問いと答えの仕組みをもつ問答歌で、情景をイメージしながら歌うのに適している。そこで、ここでは、実際に子どもたちにボールをつかせながら聴く活動を取り入れることではずむような曲の気分を感じ取る楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、歌詞や曲の気分に合わせて表現するよさを味わい、イメージを膨らませながら音楽を形作っている要素や仕組みを感じ取り表現することへの関心・意欲を高め、歌詞や曲の気分にあうように、工夫して表現しようとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態（調査対象 2年い組 男子20名 女子20名）

本学級の子もたちの実態は次の通りであった。

① 歌詞や曲の気分に合わせて歌うことは楽しいですか。
はい（39名） いいえ（1名）
② その理由を教えてください。
【「はい」の理由】 ・ 歌うのが好き（21名） ・ 元気になったり、気分がわくわくしたりする（8名） ・ 友だちと体を動かしたり、なかよくなったりできる（4名） ・ 曲をおぼえることができる（2名） 歌がうまくなる（2名） ・ 歌はものがたり（1名） 無回答（1名） 【「いいえ」の理由】 ・ みんなが歌詞や曲の気分に合わせて歌えていないから（1名）
③ 歌詞や曲の感じに合わせて歌う時には、どんなことに気をつけて歌いますか。（複数回答）
「えがおできょうも」（はずむ感じ） ・ 楽しく（10名） ・ とんだりはねたりするように（8名） ・ 笑顔で元気よく（6名） ・ とめるときにはとめる（2名） ・ スタッカートをつける感じで（2名） 「うみ」（落ち着いた感じ） ・ ゆっくり歌う（9名） ・ dono ならずやさしく歌う（8名） ・ きれいに（6名） ・ 小さく歌う（6名） ・ ゆったり歌う（2名）
④ 「かもつれっしや」の音楽に合わせて歌いながらステップを踏みましょう。
・ リズムに合わせて足踏みしながら歌うことができる。（36名） ・ 足踏みがリズムに合っていない、歌をしっかりと歌えていない（4名）

①②から、子どもたちのほとんどが友だちと一緒に遊びながら歌うことの楽しさを感じており、歌うことも好きな児童が多いことがわかる。一方、「楽しくない」と答えた子どもは、自分自身ではなく友達の表現を理由として挙げていることから、技能面での不安はもっていないと考えられる。そこで、友達と表現する楽しさを感じさせながら、友だちの良さを認め合う活動を取り入れる必要がある。

③から、態度面と音楽的な技能面とに気をつけながら、歌詞や曲の感じに合わせて歌っていることがわかる。しかし、強弱の工夫については着目している子どもは少ない。そこで、歌詞のもつイメージを豊かにとらえさせたり、曲の気分を感じ取らせたりして、イメージや曲の気分に合うように強弱の工夫をする活動を取り入れる必要がある。

④から、音楽に合わせて歌いながら体を動かすことのできる子どもは多いが、体の動きに気を取られてしまったり、歌詞をしっかりと覚えていないために自信をもって活動したりできない子どももいる。そこで、リズムに合わせて手拍子や体を動かす活動を取り入れたたり、教師の動きや歌を模倣したりする活動を取り入れる必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 歌詞や曲の気分に合わせて歌うことの楽しさを味わえるようにするために、写真や情景図など、イメージしやすい提示物を準備することにより、楽曲の場面や様子を具体的に想像することができるようにする。

イ 歌詞や曲の気分に合った歌い方や強弱の工夫ができるようにするために、歌詞の内容について話し合ったり、発表しあったりする活動を取り入れるようにする。

ウ 友だちと声を合わせて歌ったり、拍の流れにのって強弱を工夫して歌ったりすることができるようにするために、拍の流れをはっきりさせながら交互唱を行ったり、身振り手振りなどで体を動かしたりする活動を取り入れるようにする。

3 目 標

- (1) 歌詞や曲の気分に合わせて歌うことに関心をもち、歌い方を振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) 歌詞や曲の気分合った歌い方や強弱を工夫することができる。
- (3) 友だちと声を合わせて歌ったり、拍の流れにのって強弱を工夫して歌ったりすることができる。

4 指導計画 (全3時間)

過 程	時 教 材	主 な 学 習 活 動	教 師 の 働 き か け
課題 把握	1 「かくれんぼ」	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">かくれんぼのようすをおもいうかべてうたおう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ かくれんぼを聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鬼のセリフはどこだろう。 ・ “もういいよ” はだんだん小さくなる。 ・ スキップのような感じがある。 ○ 旋律把握をし、歌詞唱をする。 ○ グループとグループ、一人とみんなに分かれ歌い方を工夫して分担唱をする。 ○ 相互発表・鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ かくれんぼ遊びの遠近感を歌で表現できるようにするために、目を閉じてかくれんぼの様子を思い浮かべさせながら、強弱の工夫をさせる。 ○ 声の大きさを工夫させるために、かくれんぼをして、実際にどんな大きさがふさわしいのか考えることができるようにする。 ○ 相互唱のおもしろさを感じ取ることができるように、様々なグループ編成を行う。 ○ 曲に対するイメージを膨らませることができるようにするために、初めは曲名を知らせずに聞かせるようにする。 ○ 曲に対するイメージをもつことができるように、作られた国のことや曲の背景について補足する。 ○ 曲想や音楽を形づくっている要素を比較して、表現の工夫につなげることができるようにするために、前時の「かくれんぼ」と比較できるような板書を行う。 ○ いろいろな遊び方で楽しく活動させるために、子どもが今までにしたことのある遊び歌や、その遊び方を発表させたり、実際に試してみても楽しかったことなどを発表させたりする。 ○ 「問いと答え」の仕組みが使われていることができるようにするために、「かくれんぼと似たところはなかな」などと問いかけるようにする。 ○ 曲のはずむような感じに気付かせるために、実際にボールをつきながら、聴く活動も取り入れる。
課題 追求I		<ul style="list-style-type: none"> ○ 山であそぶようすをおもいうかべてうたおう。 ○ 「口ぶえふいて」を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どの国の音楽だろう。 ・ 呼びかけあい。 ・ はずむ感じとのびのびとした感じがある。 ○ 「かくれんぼとの」共通点・差異点について話し合う。 (共通点) ・リズム ・反復 ・ 拍子 (差異点) ・ 速度 ・ 強弱 ○ 旋律把握をし、歌詞唱する。 ○ 相互発表・鑑賞する。 	
課題 追求II		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">いろいろなあそびうたをさがしてあそぼう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 知っている遊び歌について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵描き歌 ・ 手遊び歌 ・ 縄跳び歌 ・ 手毬歌など ○ いくつか遊び歌を歌ってみる。 ○ 「あんたがたどこさ」を鑑賞し「かくれんぼ」との共通点、差異点について考える。 ○ 相互発表・鑑賞をする。 ○ 学習のまとめをする 	
課題 追求III	2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ようすをそうぞうしながら歌えただぞ。 ・ 曲の感じに合わせて、声の大きさをかえてうたえた。 ・ 日本や外国の歌にもにているところがあるんだな。 	
課題 追求IV		3 「あんたがたどこさ」	
課題 解決			
まとめ			

5 本 時 (2 / 3)

(1) 目 標

ア 歌詞や曲の気分に合わせて歌うことに関心を持ち、進んで活動に取り組むことができる。

イ 前半のはずむ感じと、後半ののびのびとした感じの曲想の違いに気付き、歌詞や曲の気分に合わせて表現の仕方を工夫して歌うことができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが、歌詞や曲の気分を感じ取ることができるように、写真を提示したり、歌いながら体を動かしたりする活動に取り組ませるようにする。また、強弱の工夫に着目することができるように、前時での学習を振り返ったり、比べたり、歌詞を基にして様子に合うような歌い方について話し合ったりする活動を取り入れるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 「口ぶえふいて」の範唱を聴き、気付いたことや感じたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ はずむような感じだな。 ・ のびのびとしたところもあるね。 	(分) ↑ 10	○ 曲の気分を感じ取ることができるようにするために、聴く前に「どんなかんじの曲かな」などと、発問してから、聴かせるようにする。 ○ 外国の楽曲への関心を高めるために、曲の生まれた国の写真を提示し、ドイツ民謡であることを紹介する。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 山であそぶようすを思いうかべてうたおう。	↑	○ 正しい音程で旋律把握ができるようにするために、跳躍音程など難解な部分を取り出し練習する。 ○ 前時の学習を生かした表現の工夫ができるようにするために、「かくれんぼではどんなことに気を付けたかな」と問いかける。
旋律把握	3 歌詞唱し、旋律把握をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホラヒという歌詞が多い。 ・ 前半と後半に分かれているね。 	↓ 30	○ 友だちの表現のよさに気付かせるために、鑑賞後どんなところがよかったか感想を発表させるようにする。
表現の工夫	4 「口ぶえふいて」を工夫しながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前半は山に登る感じで歌おう。 ・ 強弱に気を付けて歌おう。 ・ かくれんぼのときみたいな、スキップのリズムは合わないな。 	↓	○ 本時の学習を振り返らせるために、楽しかったことやできるようになったことを発表させるようにする。
相互発表・鑑賞	5 相互発表・鑑賞をする。 6 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山であそぶようすをそうぞうしてうたったよ。 ・ 同じ「ホラヒ」でも、前半と後半でかんじをかえてうたえたよ。 ・ ちがうくのに歌でも、にているところがあつたのしかつた。 	↑ 5 ↓	○ 異文化への関心を高めるために「かくれんぼ」と、「口ぶえふいて」を比較して気付いたことや感じたことを発表させるようにする。
まとめ			